

## ロータリー財団奨学生報告書

2025年7・8月版

サセックス大学 持続可能な開発修士課程 名村 穰司

重点分野：地域社会の経済発展

スポンサークラブ：東京調布むらさきロータリークラブ

ホストクラブ：Midhurst & Petworth Rotary Club

### 1. 最初に

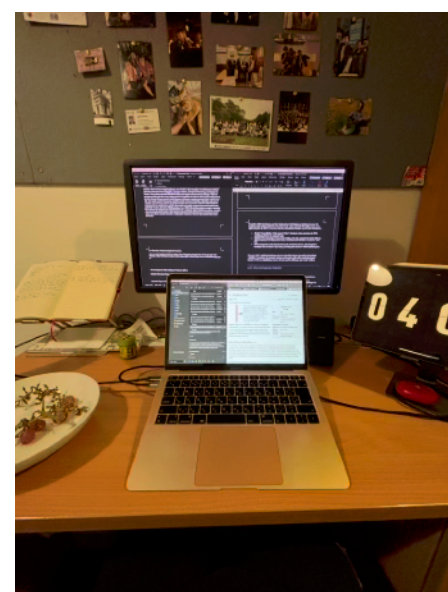
まずこの月次のレポートが遅れてしまったことをお詫び申し上げます。理由は主に修士論文によりハードな日々を過ごしており、なんと提出3週間前にメインのパソコンが水没してしまうというアクシデントにも見舞われ大変な思いをしました。なんとか提出期限の9月22日に出すことができ、一息つけたという次第であります。提出後は無事日本にも帰国をし、現在東京の実家で過ごしております。本当にこの一年は毎日がイベント尽くしでやり切った感覚があります。本当に皆様のおかげで人生で一番充実した一年でした。



水没したパソコンを復旧しようとしているところ  
(復旧できず、)

### 2. 履修内容、学校生活

履修内容としましては、7-8月は修士論文執筆期間でした。学生が各自でそれぞれのレポートを進めて、担当教員のアドバイスなどをもらいながら進めて行くという期間でした。とても自立心が求められ、時には孤独で、気づくと中々人に会っていない日などもありました。修士論文の長さの目安は15000ワードとされており、これはワードでいうとおよそ60-70ページほどとなります。私にとってここまでの容量のあるレポートを書くことはかつてなかったため、様々な面で苦労をしました。普通のレポートを3-4つ書くような課題なので、作業量などもとても多かったです。自分でバランスは取るものの、土日も関係なく、毎日作業をしているような日々でした。修士論文のテーマとしては、デジタルエコノミーが途上国の非正規労働者市場の与える影響についてでした。その中でもケーススタディとして、私はタイの配車アプリGrabが与えている影響について研究をしました。このトピックを選んだ理由としましては、私は途上国、特に東南アジアでデジタル技術を活用したビジネスの創出をし、貧困問題の削減に貢献したいと考えております。その中で、私の中でのこのことを既に実現しているビジネスモデルとしてGrabがあったので、これを題材に



修論執筆風景

進めていきました。将来の私のアイデアをブラッシュアップする上での参考になれば良いと考えたため、このトピックを選択しました。研究では主に、Grabの平均賃金とタイ全体の賃金、そして貧困率の賃金のところを比較しました。結果的にはGrabの平均賃金はタイ全体の平均を上回っており、参入障壁も低いため、貧困脱出のための友好的な手段であるとは言えます。その後主題分析をしました。これは主にGrabで実際に働いているドライバーたちが何を思い仕事をしていて、これの課題について研究しました。13個のメディア記事の中に出てくる単語をカテゴリーに分けて、どのカテゴリーの課題感が最も出てきているかについて研究しました。この分析の結果として、賃金は上がっているが生活の不安定さは増しているという結果が出ました。論文の結論としましては、Grabは短期的には非正規労働者の賃金の向上に貢献しているが、長期的に見ると労働者保障などを行っていないため、労働者の成長への寄与は限定的であると言える。

学校生活においては、論文の執筆の傍でサッカーチームの運営を頑張りました。引き続き毎週1-2回は試合を組み、ピッチを予約し、出場選手を決めるなど、雑務が多かったですが、皆が楽しんでいる風景を見るのがやりがいで結果的に1年間ほぼ毎週欠かさず活動していました。チームも最終的に20カ国から45人の学生が集まり、非常に活気のあるチームでした。ロゴ、ステッカー、ユニフォームなども作り、教室の外で一体感を作ることに成功しました。この活動を通じて、みんなから「このチームがなかったら精神的に病んでいた。それぐらい救いだった」と言ってくれる人が多数おり、私とても感慨深い瞬間でした。最後の数ヶ月は特に論文執筆で皆が集まる機会というのが中々ない中でこのようなコミュニティーを作れたのはとても幸せでした。

### 3. ロータリアンとの関わり

この7-8月ではホストクラブであるMidhurst & Petworth Rotary ClubのSimonご夫妻と2度、お食事とお茶に連れて行ってくださりました。一度目はでブライトンから近くの街のLewesというところで、フィッシュアンドチップスをいただきながら、一年についての振り返りや進路のご相談などをさせていただきました。食事の後は、ご夫妻と共に3人でLewesの街の中にある日付変更線を探しに街中を散策しました。すると突然の雨が降り出し、Simon様は少し困った様子でしたが、婦人のCelia様はお構いなしで雨の中をスタスタと歩き続けたのが印象的でした。日付変更線での写真をこちらに添付しております。Simon様とは最後に会おうということで8月下



私の誕生日パーティーに集まってくれた世界中の友人



サッカーチームの集合写真



サッカーチームの送別パーティー



日本食を友達に振舞った日



旬にもう一度お会いしました。ブライトンの海沿いのカフェでお会いしたのですが、この日もあいにくの雨でした。最後にお会いした際には「ジョージは本当に英語も流暢にできて、健康で、本当に困らない子だったな」と言われました。その他も学業でもサッカーの活動も非常に褒めてくださり、「将来何か自分で作ってそうな人だ」と言っていました。この度、ロータリークラブとのご縁を通じて、Simon様ご家族にお会いできたのは本当にかけがえの無いことでした。ただの奨学金ではなく、イギリスでの親のような存在までを提供して下さったこの機会に改めて有り難く思いました。

#### 4. 重点分野に関して感じたこと、気付いた事、履修内容との接点など

最後に修士論文から重点分野に感じて気付いたことについて2点書きたいと思います。まず1点目は地域社会の経済発展にはやはり様々なアクターの協力が必要なことです。政府、民間、国際機関、NGO・NPOなど全てのアクターが目線を揃えて地域の発展に取り組んでいかなければいけません。それぞれのアクターの中には複雑な思惑があったり、目標が違うことがあります。なので、このアクターの目標を揃えるというのは容易ではありません。しかし、この目標が一致しないと、制度面、資金面、持続可能性などという観点から開発計画が頓挫してしまうことがあります。そこではやはりこれらの開発プロジェクトやビジネスをまとめることができるビジョンを持った人が必要であると考えます。その人が周りの様々なアクターの人を巻き込むことによって、地域社会の経済発展は進展すると確信しています。二つ目には、Grabなどの非正規労働者を雇用するビジネスの責任についてです。貧困の是正に取り組むには、雇用を増やしていく必要があります。そこで非正規雇用の労働者を雇用する際には、独特の責任があります。それは労働者への教育と保障についてです。まずタイなどの途上国の非正規労働者はそもそもの教育水準が低かったりします。その方々に対して、雇用主としてはしっかり教育をすることが重要だと考えています。今回のGrabの例で言えば、デジタル技術の教育をしているという点は評価できます。次にやはり、非正規労働者への社会保障制度の拡充は政府などがしなければならないことだと思います。特に非正規労働者が結ぶような雇用契約形態をもカバーする制度が必要だと感じます。これをしなければ、労働者の雇用は不安定のままで、たとえ収入が上がったとしても生活の持続可能性という点では不安定な状態に陥ります。Grabのケースで言えば、交通事故に遭った場合の保証なども限られているので、怪我などをすると収入がゼロになります。このような状態だと、労働者は同じ仕事に追われ、スキルアップもしないことから、より生産性の高い産業に労働者が移行するのも困難です。よって企業からはスキルアップ教育、政府



Simon様ご夫妻とのLewes散歩



Simon様との最後の日



提出した修論のタイトルページ

からは非正規労働者に対しての社会保障制度の拡充が地域経済の発展という文脈でも大事だと感じました。

最後に

本当にこの一年以上私の大学院留学をサポートしていただきましてありがとうございました。この修士の1年は大変でしたが、私の人生の中で最も充実していた日々になりました。これはロータリークラブの皆様のおかげです。私の人生を豊かにしてくださり、たくさんの学びをくださり本当にありがとうございました。私もいただいたご縁や恩をしっかり返せるような立派な人間になりたいと思います。本当にありがとうございました。

ロータリークラブ2750地区グローバル補助金奨学生 名村穰司